

二〇二三年度入学試験問題

国語 (六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は25ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答用紙(マークシート)は折り曲げたり、汚したりしないでください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～40まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

母を亡くした亨と遙は、元気がない父を心配している。また、亨の上司で部長の石田は、父と同じ年で、奥さんを亡くした経験があることから、父を気にかけてくれている。石田部長のアドバイスを受け、亨が父にカウンセリングを勧めた翌日の場面である。次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

会社ではまず石田部長のところに行き、父からのお礼の言葉を伝えた。すると石田部長は表情を緩め、「そう、で、どうだったの？ 病院には行くって？」と聞いてきた。

「考えておくとは言ってみました」

「そう。じゃあ、もしほくの主治医でいいならいつでも言ってくさいって、もう一度伝えておいて」

「わかりました」

「くれぐれも遠慮しないように。おとうさん、会社の中で相談相手を見つけるより、外の人間のほうがいいと思うんだ。社内だとしても弱音は吐きたくないだろうし、その点ほくは利害がないから」

石田部長は、父から反応があつたことがうれしいのか、かなり機嫌をよくしていた。

そして、その日の昼休み、石田部長に呼ばれてデスクまで行くと、「これを君のおとうさんに渡してくれ」と封筒を渡された。

「君のおとうさんに、手紙を書いた。出過ぎた真似かもしれないが、ぼくは経験者だ。必ず役に立てると思う」

「はい……」

戸惑いながら受け取る。封筒は結構分厚くて、便箋五枚は入っていそうだった。

「おい、私信だから読むんじゃないぞ」

「わかりました」

この手紙を午前中、ずっと書いていたのだろうか。なんだか石田部長が父の友人のように思えてきた。

席に戻ると、福井が「部長がおまえに何の用だ」と聞いた。

「いえ、ちよつとした私用です」亨が答えをはぐらかす。

「おまえなあ、最近ちよつとたるんでるぞ。アベ飲料の忘年会、顔を出しただけでさつきと帰ったそうじゃないか。どうして最後まで付き合わねえんだよ。二次会、三次会にも付き合って、向こうの担当者に食い込めよ。そういう経費ならうちはいくらでも面倒見るんだぞ。いいか、広告マンってのは顔を覚えてもらってナンボなんだぞ……」

またしても説教が始まった。

亨は、小林君の言葉があつた後なので、余裕で受け流すことが出来た。この先輩もいつか、身近な人間の死に直面し、世の中を知ることになるのだろう。

「若林、聞いているのかよ」

「聞いてます、聞いてます」

周りの女子社員がクスクス笑っていた。

その夜、午後九時過ぎに帰宅して、父に石田部長からの手紙を渡すと、父は最初訝しげに封筒を見つめていたが、すぐに内容を察したのか、「ずいぶん情に厚い人なんだな」と言い、その場では開封せず、自分の寝室へと持って行った。

父が居間からいなくなったので、遙が久し振りにテレビをつけた。バラエティー番組の映像が原色だらけで目に痛かった。おまえも笑えと言わんばかりのスタジオの笑い声が耳に障る。亨は冷凍の炒飯チャーハンを温めて食べながら観ていた。

「つまんないから替えよう」

遙がリモコンでチャンネルを順にスキップする。地上波はどれも騒々しいばかりで、テレビとはこんなにテンションを上げないともたないメディアなのかと、亨は広告代理店の社員のくせにうすら寒くなった。

仕方なくケーブルテレビに切り替え、兄妹で昔のドラマをぼんやりと眺める。

「遙、冬休みはどうするんだ。今年はスキーに行かないのか」亨が聞いた。

「行かないよ。忌中じゃない」遙が答える。

「サークルの仲間には誘われなかった？」

「誘われた。断ったら、そんなのいいじゃんって言われた」

「どこも一緒だな。おれは同期から合コンに誘われて、辞退したらブーイング浴びた」

「こういうときって人間がわかるよね。一人だけ気遣ってくれる後輩がいて、聞いたら子供の頃に弟を事故で亡くして、残された家族の苦しみがわかるって言ってた」

「そうなんだよな。裏の小林君も同じようなことを言ってた」

「わたし、いつか落ち着いたら、今度は思いやる立場になろうと思った」

遙がしみじみ言った。そうか、思いやりか——。亨はやつといちばん相応ふさわしい言葉を探し当てた気がした。母が死んでから今日まで、周囲の人間ははつきり二種類に分けることが出来た。それは思いやりのあるなしだ。

「うちら、おかあさんが死んで、いろいろ学んだね」

「ああ、そうだな」

しばらく黙ってテレビを覗いていた。遙はもう飽きてスマホをいじっている。

「ねえ、おとうさんは？ 寝室に入ったきり出て来ないけど、もう寝たのかな」

食事を終えた亨が、流しで皿を洗いながら聞いた。

「まさか。まだ十時だけど。お風呂も入ってないし」 遙がソファから体を伸ばし、廊下の奥に目をやった。「おにいちゃん、立ってるついでに見て来てよ」

「わかったよ」

亨は廊下を歩き、父の寝室へと向かう。そのときふと何か予感がして、忍び足になった。寝室から、ラジオの音声が聞こえて来たからである。最近、寝室でラジオを聴くのが父の習慣になっていた。だから別に珍しいことではない。しかし手紙を読むのならラジオは邪魔のほずである。

亨は足音を立てずに部屋の前まで行き、ドア越しに中の様子をうかがった。耳を澄ませる。

オンエア曲に一瞬の間が出来たとき、ひくひくという父の泣き声が聞こえた。父が泣いている——。

亨は気づかれないよう、そのまま居間まで後退した。

「おにいちゃん、どうしたのよ、変な恰好かっこうして」と遙。亨は人差し指を口に当てた。

「おとうさんが泣いてる」声を低くして言う。

「うそ。また？ なんでよ」

「手紙を読んで泣いたんじゃないの」

「どういう手紙なの？」

「知らない。おれは読んでないから」

二人で顔を見合わせる。同じ涙でも、原因が石田部長の手紙なら、悲嘆に暮れているわけではないのだろう。きつと慰められたのだ。ともあれ、そつとしておくしかないのです、亨は先に風呂に入ることにした。遙は二階の自分の部屋へと引き上げて行く。

居間の電気を消す。母の遺影に「おやすみなさい」とささやいた。薄闇の中、母が少し笑ったように見えた。

翌朝、亨がダイニングで朝食を食べていると、父が寝室から起きてきて、封筒をテーブルに置いた。

「石田さんに渡してくれ。おとうさんからのお礼の手紙だ」

その封筒は石田部長からのものと同様に分厚く、便箋五枚以上はありそうだった。どうやら昨日、夜中にしたためたらしい。いったい何時まで書いていたことやら。

「うん。わかった」亨が戸惑いながら返事をする。

「私信だから読むんじゃないぞ」父が石田部長と同じことを言った。

父はなにやら晴れやかな顔をしていた。いつもなら背を丸めているのに、今朝は胸を反らしている。「うーっ」と意味不明のうめき声を上げ、それはエンジンの空吹かしのようにも思えた。

そして父は食欲を見せた。トーストを一枚平らげると、少し思案し、もう一枚焼いたのだ。

「おとうさん、もう一枚焼くなら、マーガリンじゃなくてスクランブルエッグ載せる？ わたし作るけど」と遙が横から言う。

「じゃあ頼むかな」

遙が張り切って台所に立った。

何はともあれ、元気が出たのならよいことだ。久し振りに見る父の父親らしい顔である。

そしてその日、亨は出社すると真つ先に石田部長のところに行った。新聞を広げていた石田部長が顔を向ける。

「おはようございます。これ、うちの父からのお礼の手紙です」

亨が封筒を差し出した。

「なんだ、律儀な人だね。返事なんていらぬのに」

石田部長が白い歯を見せ、受け取った。分厚いので少したじろいでいる。自分だって分厚かったくせに。

「ゆうべ、父は部長の手紙に感激してたみたいですよ」

「あ、そう。役に立てたならうれしいけど」

「何が書いてあったんですか」

「それは内緒。ぼくの経験談だよ。妻を亡くしているいろいろあったからね」

「とにかく元気が出たみたいで、今朝はトーストを二枚食べてました」

「そうか、そりゃあよかった」

(I)

もう一度頭を下げ、亨はデスクに戻った。パソコンを立ち上げ、メールをチェックする。そんな作業をしながら、ちらちらと石田部長に目を向けた。眼鏡を鼻に載せると、父からの手紙を開封し、読み始めたのである。

(II)

椅子に深くもたれ、少し手紙を離し、目を凝らして読んでいた。

(III)

父はどんなことを書いたのだろうか。苦しい胸の内を、同年代で同じように伴侶^gを失った石田部長に訴えたのだろうか。手紙なら、家で子供たちには言えない弱音も吐けるのかもしれない。会ったことがないから、却^{かえ}って正直になれるのかもしれない。

そのとき、石田部長が不意に顔を歪^{ゆが}めた。そして立ち上がると、手紙を持ったまま、左手で鼻を押さえ、部屋の外へと早足で出て行った。

(IV)

隣の課の女子社員が、偶然の目撃者だったらしく、亨の視線に気づいて振り向いた。

「ねえ、石田部長、どうかしたの？」声をひそめて聞いた。

「さあ、わかりませんが」亨はかぶりを振った。

(V)

これは教えられない。石田部長の名誉のためにも、見なかったことにするのがいい。きっと父と自分を重ね合わせ、自分が妻を亡くしたときのことを思い出し、感極まったのだろう。しかし、おじさんたちは何をしているのだ――？

亨はなんだかおかしくなった。大人はいいなとも思った。そして心が軽くなった。みんな、支え合って生きている。それは損得を超えた、人間の本能のようなものだ。

母はこの様子を、天国で笑って見ているにちがいない。

そう思ったら、亨も鼻の奥がつんときた。

(奥田英朗^{ひでお}「手紙に乗せて」による)

(注) 小林君の言葉……小林君とは近所の友人のことで、親族を亡くした経験があり、互いに共感し合っていた。

問一 傍線部 a・f・g の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解

答番号は 。

a 「訝しげに」

1 喜んで

2 驚いて

3 怪しんだ様子で

4 期待した様子で

f 「律儀な」

1 義理がたい

2 心の広い

3 気が利く

4 事務的な

g 「伴侶」

1 希望

2 生きがい

3 配偶者

4 家族

問二 傍線部 b 「バラエティー番組の映像が原色だらけで目に痛かった」とあるが、これはどのようなことを表しているか。次の 1 ～

- 1 当たり前だと思っていた普通の生活が幸福だったこと。
- 2 亨があらゆるものに対して批判的になっていること。
- 3 母が亡くなる前の日常生活とはすっかり変わってしまったこと。
- 4 亨たち家族が世の中のくだらなさを知ってしまったこと。

問三 傍線部 c 「ふと何か予感がして」とあるが、それはなぜか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。
解答番号は 5。

- 1 父が長い間寝室にこもって出てこなかったから。
- 2 寝室のドアが開いていたから。
- 3 手紙を読んでいるはずなのにラジオがかかっていたから。
- 4 曲と曲の間に父が泣いている声が聞こえたから。

問四 傍線部 d 「そつとしておくしかない」とあるが、なぜそのように思ったのか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 6。

- 1 子供である自分たちに妻を亡くした気持ちを理解することはできないので、経験者の石田部長を信じて見守ることしかできないと考えたから。
- 2 石田部長からの手紙を読んだわけではないので父の涙の真相を知ることができないが、おそらく心配はいらないだろうと前向きに捉えたから。
- 3 家族を亡くした者として子供である自分たちにできることは全部したので、あとは父が自ら立ち直るのを待つしかないと考えたから。
- 4 父が母を亡くした悲しみを家族に打ち明けるつもりがない以上、子供であるとはいえ夫婦のことに立ち入るのははばかられたから。

問五 傍線部 e 「遙が張り切って台所に立った」とあるが、それはなぜか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 7。

- 1 父に食欲を出してもらおうとスクランブルエッグを作ることを提案したら、受け入れられて機嫌がいいから。
- 2 父がトーストを二枚食べようとしていることから元気を取り戻した様子を感じ取ってうれしいから。
- 3 父が食欲を見せたので、久しぶりに料理の腕をふるうことができる気になっているから。
- 4 父の元気が出るようにおいしいスクランブルエッグを作ろうと意気込んでいるから。

問六 本文では次の部分が抜けている。この部分が入るべき箇所は本文中の (I) ～ (V) のどこか。次の 1 ～ 5 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 8。

泣いてる——？ 亨は自分の目を疑った。しかしあの挙動はどう考えても……。

- 1 (I) 2 (II) 3 (III) 4 (IV) 5 (V)

問七 傍線部 h 「おじさんたちは何をしているのだ——？」とあるが、この表現から「亨」のどのような気持ちが読み取れるか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 9。

- 1 自分より年上の父や石田部長が涙を流している様子を立って続けに見て、どのような気持ちなのか疑問に思っている。
- 2 いい大人である父や石田部長が手紙を読んでこっそり泣いている様子を情けなく思い、あきれかえっている。
- 3 立派な大人である父や石田部長がお互いの手紙に慰められ泣いている様子に、びっくりしている。
- 4 自分より大人である父や石田部長が手紙によって通じ合い思わず涙を流す様子を、ほほえましく思っている。

問八 傍線部 i 「そう思ったら、亨も鼻の奥がつんときた」とあるが、それはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選

びマークしなさい。解答番号は 10。

- 1 石田部長など周りの人に支えられながら、家族の困難を母なしでも乗り越えることができ、それを母も喜んでいるだろうと感じたから。
- 2 父と石田部長とのやりとりの中に互いに思いやる気持ちを見出し、さらに母が見守ってくれているような気持ちがして感極まったから。
- 3 自分自身や父と石田部長との新しい交流にこれからの人生が開けてくる可能性を感じ、それを母も応援してくれているような気がしたから。
- 4 母の死によって自分を見失っていた父が、接点のなかった石田部長との心のふれあいによって立ち直ったことが感慨深いものだったから。

問九 「石田部長」はどのような人物として書かれているか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答

番号は 11。

- 1 亨の父をまるで友人のように気遣い、手紙によって亨の父の心の支えになるとともに、亨の父との交流を楽しんでいる。
- 2 妻を亡くした苦しみや悲しみを乗り越えた経験から、手紙を通して亨の父が立ち直れるように教え導いている。
- 3 亨の父を心配するあまり空回りする様子を見せつつも、深い思いやりをもっているので亨や亨の父から信頼されている。
- 4 妻を亡くして深く傷ついているが、そのような様子はうまく隠して同じ境遇の亨の父を気にかけて励ましている。

問題一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

公務員のフシ^aヨウジ^aが大きく報道され、改めて、公務員の仕事とは何かが問われています。私が思う「公務員像」について、少しお話ししてみたいと思います。

私が国家公務員になる時、大学の恩師が「公務員は翻訳者^b。国民のニーズや願いを制度や法律に翻訳するのが役割だ」という言葉を贈ってくれました。

国民の願いやニーズを体现するのは政治家の仕事、その願いやニーズを正しく汲み取って、制度に転換するのが公務員の仕事です。一種の技術者といえるかもしれません。三十七年半にわたり、公務員として働いて、今思い出しても、恩師の言葉は大変、正しいアドバイスだったと感じます。

公務員と聞いて、私の中で思い浮かぶ言葉に「連立方程式^cを解く」というものもあります。例えば、厚生労働省が担当する社会保障の仕事では、「社会保障を充実させたい」という課題があります。社会保障のサービスを充実させるには、人手も、お金もかかります。一方、「国民の負担をそれほど重くしないためにはどうすればよいか」という課題もあります。もちろん、必要な税金や保険料は納めてもらわなければならいわけですが、国民感情を考えても、実際の支払い能力を考えても、それほど負担の水準は高くはできないということがあるわけです。

これらは、まさに矛盾^dと盾の関係です。バランスを取りながら、両方の課題をかなえるにはどうするか。どうすれば、この連立方程式が解けるか。長年、働いてきて、公務員の仕事は「連立方程式」を解くものばかりだったという気がします。

これが例えば民間保険なら、医療にしろ、福祉にしろ、非常に高い水準のサービスを提供する制度も作ることができます。その分、負担も当然、高くなりますが、それを払える客層だけを相手にすることができるわけです。

でも、公務員が作る制度は、そうはいきません。一部のお金持ちだけを相手にするのではなく、お金がない人も含め、全国民を対象にした制度を考えるのが仕事だからです。

そうになると、全員が満足するものできません。A、なるべく多くの人が受け入れてくれる現実的な制度を作らなければならない。悩ましく、難しい仕事です。利害が異なる人たちの調整をして、最大公約数的な「解」を見つけていく。

正解がない中で、私^aが心にとどめるようになったのが「納得性」という言葉です。全員が喜んで賛成というわけにはいかななくても、技術者である公務員が、様々な角度からその課題を検討した結果が、「まあ、仕方ないか」と大多数の人に思ってもらえるかどうか。技

術者の力量は、そうした納得に値する制度や選択肢を提示できるかどうか、ということだと思います。

納得性という言葉を中心とどめるようになる前には、正しいことを提示できていけばよいのではないかと、思っていました。客観的に見て、B、マクロやミクロなど様々な観点から見ると、これしかないのでは、と思うことがある。でも、こちらがいくら「これが正しいんです」と言っても、人の立場はそれぞれですから、なかなか同意してくれません。制度への納得性や理解がなければ受け入れてもらえない。それぞれの立場の人々が、自分の立場や他の事情も踏まえた上で、いろいろ意見はありつつも納得してくれるかどうか、力が握ります。

私が厚生労働省で手がけた仕事の中で、障害者自立支援法創設の仕事は、本当に難しいものでした。制度を利用する時、障害者にサービス量に応じた定率負担として、原則一割の自己負担を求めたからです。負担はもちろん、誰だって嫌です。何度も何度も、関係者のもとに足を運びました。障害の当事者はもちろん、障害者福祉や障害者コヨウの現場にいる人たちの意見を聞き、制度全体の絵姿を考えました。

そうこうするうちに、厚生労働省の案にキョウゴウに反対していた人の一人が、「今回は、村木さんにだまされてみるか」と言ったのです。私も若かったんですね。それを聞いた当初は「なにー、だますなんて。そんな人聞きの悪い」と思いました。でも、後から考えると、これはすごい褒め言葉だった。

こいつが言うならその通りしてみよう、100%納得できるものではないけれど、いろいろ考えた末に提案しているのだから、いっちょ、だまされてみるかと思つて頂いたのです。それで法案に賛成して下さった。今では公務員として、^h最上級の褒め言葉を頂いたとありがたく思っています。

公務員という仕事で思い浮かぶ言葉には、次のようなものもあります。ある会合で、誰かが言っていた言葉です。

「0を1にするのはNPOの力。理論武装して1を10にするのは学者の力。^{注1}ペイする範囲内で10を50にするのは企業の力。そして、誰もが利用できるように50を100にするのが行政の力だ」

この「50」を「100」にする行政の力が、公務員の仕事というわけです。

国にも自治体にもまだ制度がない時に、「これが必要だ」と思ったら、何とかしようと思つて持ち出しをしてでも新しい仕組みやサービスを作り出すのがNPOの力です。現場の強みですね。機敏に、柔軟に動いて問題解決を図ってしまう。役所のように、公平性や全体性を考えるより先に心と身体が動いている。こうしたセンスって、本当に魅力的です。

そうして「1」が生まれた時、ここでこんなことをやっている人たちがいます、これはこういう必要性に裏打ちされていて、こういう意義があります、だからここだけでなく全国にあった方がいいですと理論づけをして、「1」から「10」に広めるのが学者や研究者の力です。

理論が固まったら、それをさらに普遍化し、世の中に広めて「10」から「50」にするのが企業の力。なぜ「50」までかというところ、経営が成り立つことが前提である企業は、お金のない人全員までを対象とすることができないから。そして、まさに「50」を「100」にするのが行政の力、つまり、公務員が汗をかき部分ではないかと言われました。

これって、なかなか当を得ているのではないかと思います。

中には、「50」を「100」にする仕事より、「0」を「1」にする仕事、あるいは「1」を「10」にする仕事の方に魅力を感じて、公務員を辞めてしまう人もいます。とりわけ福祉の仕事などをしていて、今、目の前で困っている人を救える現場の仕事の方により魅力を感じて、たとえ給料が低くなってもさっさと転身してしまう人もいます。辞めるのは勇気があるのに、すごいと思います。

ある時、NPOの人たちとコンシンをしていた席で、辞めた公務員の話になりました。彼らがこう語っているのを聞きました。現場のことをよくわかってくれている人こそ、辞めずに公務員のままできてほしかった。そのまま仕事を続け、やがては自分たち現場の声を生かした制度・政策を作る立場になってほしかった。どうして辞めちゃったのかな、と。

もちろん、生き方は人それぞれです。とはいえ、そうか、現場の人たちはそう考えているのかと思います、私は黙ってそれを聞いていました。「現場の思い」を受け止めて、それを反映した制度作りをできる公務員になりたいと、改めて感じたのです。そのためには、シンボウ強く今の仕事を続けることが、現場の状況をいろいろと教えてくれたこの方たちに恩返しすることにつながる。そう確信しました。

(中 略)

公務員を目指す若い人や後輩に私がよく言うのは、国民のニーズを感じ取る「感性」、それを政策に落とし込む「企画力」、きちんとそれらを伝えられる「説明力」が公務員には求められる、ということだ。

原点として、人が困っているから我々の仕事がある。課題を感じ取る力、現場の人から聞き取れる力が必要です。現場を見たり、人と話したりして、国民のニーズを的確に感じ取る力がないとやっていけない。なぜこの人たちは訴えているのかかわかる能力です。

そして、それを解決する施策を作り上げる力も大事です。企画を作る仕事は、頭がよくなければできないかといえ、そうでもない先輩が教えてくれました。もちろん、頭がよければそれに越したことはありませんが、経験がある程度、補ってくれるというのです。以前見たあのやり方を生かせないだろうか、誰かが同じようなことで悩んでこうしていたとか。過去の仕事の経験を生かすので

す。

この感性と企画力が大事だとずっと言ってきましたが、数年前から、それに加えて「説明力」も大切ですよと言いはじめました。どんなに良い商品を作っても、売れなければ意味がありません。役人は生意気で頑固な技術者だから、商品さえ良ければ売れるはずだと思いがちです。俺たち、正しいものを作っているのだから、国民は買うべきだと。でも、消費増税の仕事でも実感しましたが、良い車でも、黙っていて売れるわけではない。技術を説明できる「セールスエンジニア」がいて、初めて商品の良さが理解されます。そうした能力が役人にも必要です。消費増税がなぜ必要か、少子化対策がなぜ大事か、働き方改革を今なぜやらなければならないのか。説明力は重要です。良い商品設計ができるだけではだめだと実感しています。

(村木厚子『日本型組織の病を考える』による)

(注) 1 ペイする……利益があること。

2 セールスエンジニア……営業を技術的な面でサポートする職種のこと。

問一 傍線部 a・f・g・i・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は ～ 。

a 「フシヨウジ」

- 1 古代文明ハツシヨウの地。
- 2 花粉によって鼻炎をハツシヨウする。
- 3 交通のヨウシヨウとして発展してきた。
- 4 次の章にてシヨウジュツします。

f 「コヨウ」

- 1 朝礼でテンコを取る。
- 2 不当なカイコに反対する。
- 3 部活のコモンを引き受ける。
- 4 広くモンコを開く。

g 「キョウコウ」

- 1 体内にコウタイが作られる。
- 2 雑誌にキコウする機会を得た。
- 3 コウドの高い水。
- 4 コウガラムチな人物。

i 「コンシン」

- 1 コンリンザイ、口をきかない。
- 2 給食のコンダテ。
- 3 コンイン届けを提出する。
- 4 コンイにしている医師。

j 「シンボウ」

- 1 研究のシンシンを示す。
- 2 ホシンをはかる。
- 3 その言われようはシンガイだ。
- 4 シンサンをなめる。

問二

傍線部 b 「公務員は翻訳者」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 17。

- 1 公務員の仕事は、国民の要望を聞き取って正しく理解し、わかりやすい言葉で伝えることだということ。
- 2 公務員の仕事は、国民が必要としていることを聞き取り、それに見合った制度や法律を国民に紹介することだということ。
- 3 公務員の仕事は、国民がなにを必要としているか汲み取り、それを実現したり解決したりする制度や法律を作ることだということ。
- 4 公務員の仕事は、国民の願いや望みを理解して制度や法律を作り、その制度や法律についてわかりやすく説明することだということ。

問三 傍線部 c 「『連立方程式』を解く」とあるが、なにとなにを「連立」させて「解く」のか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 18。

- 1 人的負担と費用負担
- 2 社会保障の充実とサービスの充実
- 3 人的負担と支払い能力
- 4 サービスの充実と費用負担

問四 傍線部 d 「矛と盾の関係」とあるが、それはどのような関係か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 19。

- 1 どちらか一つだけを選ぶことはできない。
- 2 どちらか一方だけでなく、二つある方がいい。
- 3 どちらか一方だけでなく、二つなければ成り立たない。
- 4 一方を成り立たせれば、もう一方が成り立たない。

問五 空欄 A ・ B に入る語句はなにか。次の 1～8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 20 ・ 21。

- | | | | | | | | |
|---|------|---|----|---|-----|---|-------|
| 1 | たとえば | 2 | でも | 3 | つまり | 4 | したがって |
| 5 | ところで | 6 | また | 7 | そこで | 8 | 一方 |

問六 傍線部 e 「最大公約数的な「解」を見つけていく」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。

- 1 さまざまな立場にあるできるだけ多くの人が納得できる制度や選択肢を探りながら作っていくということ。
- 2 立場が異なるすべての人が満足できるように制度や選択肢を指して、様々な角度から検討するということ。
- 3 その制度や選択肢によって一部の人が満足できることを、その他の大多数の人が納得できるようにするということ。
- 4 利害が異なる人たちから納得してもらい支持を得られるように、制度や選択肢をできるだけ多く提示するということ。

問七 傍線部 h 「最上級の褒め言葉を頂いた」とあるが、筆者が「最上級の褒め言葉」だと感じたのはなぜか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 難しい利害関係を調整し、同意を一つ得られたことで、公務員として一人前になれた気がしたから。
- 2 完全に納得したわけではないが、筆者が考えたことならばと、筆者の仕事を信頼して同意してくれたから。
- 3 熱意をもって何度も何度も足を運んだ結果、だまされてもいいと思ってくれほど信用してもらえたから。
- 4 様々な角度から検討した末に提案しているという筆者の説明が功を奏し、反対を取り下げてくれたから。

問八 傍線部 k 「説明力」とあるが、それはどのような力か。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 24。

- 1 正しいものを作っているのだからと上から目線にならず、国民の声を取り入れながら説明して納得してもらおう力。
- 2 いいものを作っているのだからいつか必ず納得してもらえると信じ、謙虚に説明し続けられる力。
- 3 自分たちが作ったものやその意義について、なるべく多くの人がある程度納得してくれるような説明をする力。
- 4 自分たちが作ったものの正しさや必要性を理解した上で、すべての国民に納得してもらえようように魅力的に説明する力。

問九

Yさんは文章を読み、次の1～4のようなメモを取った。この文章の説明や読み取れる内容としてあてはまらないものはどれか。次の1～4のうちから適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は25。

- 1 「0を1にする」「10を50にする」など、数字を使ったたとえで職業ごとの役割が説明されていてわかりやすい。
- 2 企業は利益が見込めれば一部の人だけが対象となるサービスも提供できるが、行政はすべての人が対象となるサービスしか提供できないという違いがある。
- 3 障害者自立支援法を創設したときの話やNPOの人たちの話など、体験談を交えながら、筆者の公務員の仕事に対する心構えや職業観について述べている。
- 4 筆者は文章の最後に、公務員として必要な資質を「感性」「企画力」「説明力」の三つにまとめている。

問題三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人は未来に何を求めるのだろうか。たとえば移動の未来を考えると、技術の進歩や素材の革新だけからこれを想像するのはナンセンスだ。技術のみが環境を変えるのではない。技術の進展は確かに大きな要因であるが、そこにはこうありたい、こんな風に移動したいという人間の欲望が、大きなドライブをかけている。

たとえば、エンジンの発明は、ガソリンの爆発的燃焼を、推進力を生み出す力に変えていくという革新的な技術の飛躍が生み出したものだが、スピードという新しい力への憧憬が根底にないと、その欲望をかたちにするものは生まれない。爆発力によって生まれる荒ぶるエンジンパワーを、野生の馬を乗りこなすように制御して、未知のスピードを我がものとする中で、人間はこれまで到底乗り越えられなかった距離をひとまたぎにできるようになった。自由に速く移動する快楽。それが交通事故という新たな死の危険を生み出すとしても、あるいはクルマという異物が疾走する環境が、歩行する人や自然を少なからず蹂躪するにしても、それら幾多の負の要因を甘んじて許容するほどに、人間の移動へのあこがれは強かった。

クルマは移動とスピードへの欲望という土壌に育った果実である。コンクリートでできた大蛇のように荒々しくうねる東京の首都高速道路には、そこに住まう人々の欲望が反映されている。これを江戸の粹人たちが見たならば、その技術に驚くと同時に、早く移動するという欲望が、美しい街を作るという欲望を凌駕している事実(注1)に呆れ、無粋さと羞恥をそこに感じるかもしれない。欧州に生まれたミシユランガイドに代表されるような、クルマによってもたらされる新たな享樂をしたたかに収穫していくためのソフトウエアを持つ余裕もなく、第二次大戦後の復興と、先進国の一隅に居続けたいという焦りが日本にはあった。都市におけるジンソクな移動システムをいち早く手にしたいというのは国家の欲望でもあったのかもしれない。その欲望のかたちがオリンピックを開催した一九六四年前後の東京という都市にコクイン(注2)されてしまった。河川の上、住宅の上をまたいで敷設された首都高速道路はそうして生み出された。

しかし今日、日本のクルマが変わりはじめているということは、移動への欲望のかたちが変わりはじめていることである。二酸化炭素排出量の削減が世界の共通課題となっている今日、石油から電気へ、エンジンからモーターへと、クルマ技術の根幹が移行しつつある。変容しつつあるのはもはやクルマ単体ではない。移動や通信を含んだ巨大な都市システム全体である。その巨大なシステムが変化の兆しを見せはじめている。技術の進化に、移動への欲望の変化が加味されることで、都市や道路、通信やコミュニケーションを含めた環境の本質が変わろうとしているのである。

パリとロンドンで開催した展覧会「JAPAN CAR 飽和した世界のためのデザイン」は、現代の日本車の特徴や環境技術を紹介する

だけではなく、クルマの未来を展望する試みでもあった。

飽和した世界が今後求めはじめる「賢い小ささ」や、脱化石燃料を具体化していくクリーンエネルギーへの積極的な移行が、日本のクルマの特徴であり、その背景に、ステイタスや自己表現のメディアを超越した、クールな日用品としてのクルマ観の成熟があることはすでに述べた。さらに重要なことは、クルマがもはやドライバーだけのものではなくなりつつあるという事実である。

人工衛星を利用したGPSという技術によって、クルマの位置が正確に割り出されることは周知の通りである。しかし個々のクルマがどこにあるかという情報は個人情報として守られなくてはならず、全てのクルマの位置が把握されていたとしても、そのデータを運用することは簡単ではない。ただ、この技術をマクロな視点で見ると、渋滞の緩和、すなわち都市という身体から鬱血をなくし、血流をスムーズにする技術の基礎となるなど、前向きに考えられていいポイントも少なくない。この展覧会には、いわゆるクルマメーカーだけでなく、都市のインフラをつくる巨大テクノロジーを供給できるような会社や、人と機械のインタラクションを進化させていく技術を担う会社が参加してくれていた。

A、日立は、あるタクシー会社三〇〇〇台の一日の運行状況を、GPS技術を用いて三〇秒ごとに記録したデータから、まさに都市の血流を視覚化したような映像を作り出した。一台一台のタクシーが光る点となり、皇居の空洞を中心に首都圏を放射状に循環する映像は、まさに心臓を中心とした血流のイメージそのものである。

デンス^(注5)は、人とクルマのインタラクションを進化させていくという視点から、ドライバーとクルマの新しい対話のかたちや、人間の目を遥かに超えるセイミツ^hさでクルマの周辺情報を察知するセンサーの能力を示す展示を行った。

クルマ相互の衝突防止に関する技術も着実な研究が進んでおり、さして遠くない未来において、クルマ同士は衝突しなくなると予測されている。日本に第二東名高速道路ができるとすると、その頃にはハンドルを手放して運行する方が、ハンドルを握るよりも安全であるような技術が登場しているはずだ。

クルマ単体ではなく、道路や通信システムを含んだ大きな環境が変化していく兆しがそこには読み取れる。クルマの技術も、巨大な都市インフラを制御する技術も、さらには移動に対するクールな認識の成熟をも含めて、日本はその変化の先端にいる。以下は、「JAPAN CAR 飽和した世界のためのデザイン」という展覧会に関わる中で、自分なりに得た、移動の未来に対するヴィジョンである。

エンジンからモーターへ、ガソリンから電気へと替わることで、クルマの本質ははっきりと変わっていく。ガソリンエンジンは「荒ぶるマシン」であり、ドライバーが身体技術でこれを制御し馴れ慣らすことでスピードを我がものとし、「行く」という能動性を謳歌す

ることができた。一方で、電気で動くクルマは「行く」という主体性よりも「スムーズに移動する」という合理性への希求と表裏の関係を持つ。それはエンジンを制御するという運転の美学を抑制し、あらゆるところにトランスポートしたいという欲求、すなわち「移動」を最短、最少エネルギーで実現したいという冷静な意欲によって運用されるマシンである。居眠りをしている間に到着、という状況すらこのシステムは積極的に受け入れる。要するに、技術のシフトに呼応するように、移動技術は、運転への能動的な欲求を背景とした「ドライブ」系から、移動への冷静な意志に寄り添う「モバイル」系への移行がおけると予想される。

移動のための「モバイル」は、空気のように日常に寄り添う存在であるため、最も必要であるにもかかわらず、人間の強い所有欲やあこがれの対象にはならない。しかし、巨大かつ無意識に希求されるものこそ産業の本質であるから、クルマ産業の中心はここに確実に移行していくはずである。移動のメインストリームは、個人のものから都市インフラに近いものへと変わっていくだろう。

一方で、そうした状況をつまらないと感じる、スポーツカー好き、エンジン好きも未長く存在するはずだ。B、比重は小さくなるものの、ドライブ志向のクルマは、移動への主体性の象徴としてその輝きを失うことはないかもしれない。しかし進歩の速度が緩やかになるため、エンジンは危険と隣り合わせのC性の高い乗り物になる。道路に引かれた白線というヤクソクのみを頼りに、ミスの多い人間に運転の全てを委ねていた時代があったという事実には、やがて人々は戦慄を抱くようになるはずで、そうになると、エンジンを運転するような命知らずの行為にはなかなか戻れない。したがって、エンジン車でのドライブに誘って、すんなり同乗してくれるとすれば、それは強い信頼の証で、とてもロマンチックな出来事になる。

他方では、レジャービークルなどは、自然志向の高まりとともにさらに進化していくだろう。人為のコンセキもないような極まった自然の中に先端テクノロジーを駆使してぼつりと存在したいという衝動は、理性に自負を持つ人間の根源的な欲望のひとつである。植民地文化の華やかかりし時、西洋人がことさら極まった野性的環境の中で、白いテールブルクロスと、白服の給仕係をともなつて、フルコースの食事をしたがった心性も同じ動機に起因するものだ。電気がエネルギーとなるなら、キャンピングカーなどはさらに高性能化していくことが予想される。クルマが移動ツールのみならず、情報ツールとしてのコミュニケーション性、さらには居住性や娯楽性を高めていくため、性能のいいクルマを手に入れば、家を持たず、自然の中で暮らし、仕事までするような人も登場してくるかもしれない。こういう局面では法整備も必要になってくるだろう。

(原研哉『日本のデザイン——美意識がつくる未来』による)

(注) 1 ミシユランガイド……フランスのタイヤメーカー・ミシユランが発行しているレストランや宿泊施設などの案内本。もともとクルマで遠出を

したときに立ち寄る店を紹介するために作られた。

- 2 「JAPAN CAR 飽和した世界のためのデザイン」……デザイナーである筆者と建築家の坂茂が二〇〇八年から二〇〇九年にかけて行った展覧会。
- 3 インタラクション……相互作用。
- 4 日立……日本を代表する電機メーカー。
- 5 デンソー……日本最大手の自動車部品メーカー。

問一 傍線部 a 「人間の欲望が、大きなドライブをかけている」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当

なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 26。

- 1 人間の欲望には限りがなく技術開発はどこまでも続くということ。
- 2 人間の欲望は技術開発が加速する原動力になるということ。
- 3 未来を考える上で技術の進歩よりも人間の欲望が重要視されるということ。
- 4 技術の進歩によって人間の欲望がますます実現されるようになるということ。

問二 傍線部 b 「無粋さと羞恥をそこに感じる」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選

びマークしなさい。解答番号は 27。

- 1 スピードへの欲望が美しい街への欲望に勝ることに、新たなおもしろみと美しさを感じるということ。
- 2 早く移動する欲望に飲まれて街の美しさを大切にしないことに、怒りとやるせなさを感じるということ。
- 3 街の美しさよりも移動の早さの実現を優先している風情のなさに、恥ずかしさを感じるということ。
- 4 街の美しさを実現させる技術が、スピードを実現させる技術を超えられないことに、情けなさを感じるということ。

問三 傍線部 c・d・h・k・1と同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマ

クしなさい。解答番号は 28 。

c 「ジンソク」

- 1 ジンダイな影響を与えた。
- 2 ジンギを重んじる。
- 3 ジンジを尽くして天命を待つ。
- 4 シップウジンライの勢い。

d 「コクイン」

- 1 今でもコクメイに覚えている。
- 2 レイコクな一面をもつ。
- 3 イツコクを争う状況。
- 4 内部コクハツされた。

h 「セイミツ」

- 1 セイカンに徹する。
- 2 キョセイを張る。
- 3 セイゾウ元を調べる。
- 4 セイコウな作り。

k 「ヤクソク」

- 1 ケツソクを強める。
- 2 コウソクを守る。
- 3 ソクジツ発送する。
- 4 ショウソクを絶つ。

1 「コンセキ」

- 1 セキベツの思いをこめる。
- 2 部下をシツセキする。
- 3 イセキを訪れる。
- 4 コセキを調べる。

問四

傍線部 e 「環境の本質」とあるが、ここでいう「環境」とはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 自然生態系の在り方
- 2 人と物との関係
- 3 近代都市としての歴史
- 4 都市生活全般

問五

傍線部 f 「クルマがもはやドライバーだけのものではなくなりつつある」とあるが、それはどのようなことか。次の 1 ～ 4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 。

- 1 一つひとつのクルマが個別に動くだけでなく、クルマを含めた都市インフラ全体で機能するものに変化していくということ。
- 2 個人が運転する乗り物として利用する形は終わり、都市の一部として全体で管理するシステムに移行していくということ。
- 3 ドライバー個人が満足するクルマよりも、渋滞の緩和や事故の回避など都市全体へ貢献するクルマの開発が進むということ。
- 4 クルマは都市システムに影響を与える存在であり、クルマに乗らない人も巻き込んで発展していく段階にあるということ。

問六

空欄 ・ に入る語句はなにか。次の 1 ～ 8 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は ・ 。

- 1 たとえば
- 2 なお
- 3 だから
- 4 ただし
- 5 けれども
- 6 さて
- 7 つまり
- 8 また

問七 傍線部 g「心臓を中心とした血流のイメージ」とあるが、筆者はこの表現によってどのようなことを伝えようとしていると考えられるか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 37。

- 1 都市全体を俯瞰^{ふかん}で見たときにクルマというものを再発見できること。
- 2 クルマが血流のように滑らかに移動する快適な都市を作るべきだということ。
- 3 クルマは相互に作用しながら連動して働く機械であること。
- 4 クルマは都市という空っぽの体に命を授ける必要不可欠なものであること。

問八 傍線部 i「電気で動くクルマは「行く」という主体性よりも「スムーズに移動する」という合理性への希求と表裏の関係を持つ」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 38。

- 1 電気で動くクルマは、主体的に運転されるためのマシンという一面と、目的を移動に振り切った一面の間で揺れ動くということ。
- 2 電気で動くクルマは、自分で運転することよりも移動手段としての効率のよさに主眼を置いたものになるということ。
- 3 電気で動くクルマには、制御が必要な大きなパワーは必要とされず、小さなパワーで無駄なく動くことが求められるということ。
- 4 電気で動くクルマには、快適で効率的な移動への欲求が反映され、能動的な移動への欲求は反映されないということ。

問九 傍線部 j「巨大かつ無意識に希求されるものこそ産業の本質である」とあるが、それはどのようなことか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

- 1 人々が強く欲するものと無意識に欲するものどちらも産業の対象となるということ。
- 2 普段あまり意識されることがないが必要不可欠なものを生産し提供することこそ産業であるということ。
- 3 人々が潜在的に欲しているものを商品として具現化し、発展させていくことが産業だということ。
- 4 存在していることが当然だと思われるほど広く多くの人に必要とされるものは産業的な価値が高いということ。

問
一〇

- 4 3 2 1
先進 趣味 安全 大衆

C

に入る語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

40

。